



常に前進することを忘れずに ～生徒が主役の学校～

つい最近まで12月とは思えないような気温でしたが、ここ数日はこの季節らしい気候となり、2023年もあと数日で終わりを迎えようとしています。石岡中の生徒たちは、様々なことに工夫しながら取り組んできました。新人戦や桐苑祭の合唱コンクールでは、仲間との団結力を高めました。1年生のふるさと探訪、2年生の職業人に話を聴く会、3年生の保育体験では、友達と協力して充実した活動を行うことができました。

さて、年が明けると、次の学年はすぐにやってきます。一人一人が自分や友人の成長を実感し、新たな目標に向かって頑張り抜いてほしいと願っています。

これまでの学校生活を振り返って ～各学年代表の発表から～

早いもので入学してから9ヶ月が経とうとしており、今年も残りわずかとなりました。中学校生活にもだいぶ慣れてきて楽しく過ごせています。

しかし、学校生活を振り返ってみると、いくつか反省点があります。

学習面では、ワークです。ワークを計画的に進めなかったために、テスト前に慌てることになってしまったので、これからは余裕をもって進めるようにしたいです。

生活面では、5分前入室3分前着席と挨拶です。5分前入室3分前着席では、ときどき代表委員や先生の声掛けがないと座れないことがあるので、時計を見て行動するようにしたいです。挨拶では、先輩や地域の人などに積極的に挨拶をすることができたので、これからも続けていきたいです。

部活動では、学校での練習に工夫が必要と感じました。苦手なサーブやレシーブなどの技をたくさん練習したり、友達や先輩、先生などに教えてもらったりして、上手くなるために、放課後の練習や家での練習を頑張ったので、これからも続けていきたいです。

私たち1年生も残り3ヶ月で終わり、2年生になります。2年生になったら、先程の反省点を生かし、生活していきます。部活動では、これからも練習に励み、今後入学してくる後輩から憧れられるような先輩になりたいです。

1年 中島 梨央那

冬休みを迎えるにあたり、僕が夏休みを終えてから、今日までに頑張れたことや成長できたと思えた出来事を振り返ってみました。

まずは、学校行事に意欲的に取り組めたことです。夏休み明けからの行事はいくつかありましたが、特に合唱コンクールでの出来事が印象に残っています。合唱コンクールに向けての練習が始まった頃、僕は各パートのまとまりがあまり感じられないなと思っていました。そんな中、中間発表で他のクラスの合唱を聴き、このままでは駄目だという雰囲気クラス全体に生まれました。それからは今回の桐苑祭のスローガン「一唱三嘆」を思い返して、昼休みの練習や放課後練習を重ね、一人一人が本番に臨む準備をするようになりました。目標としていた入賞は叶いませんでしたが、クラスとして以前よりまとまることができた良い経験となりました。

次に、生活面でよく頑張れたと感じることがあります。それは、健康に気を配り生活することができたことです。今年は特に時期外れのインフルエンザが流行しました。そのため、引き続き、学校でも家でも手洗い・うがい・消毒を外出後に忘れずに行いました。他にも毎日の生活リズムを整えるといったことも、基本的なことですが、とても大切だと思ったので、意識して生活しました。これを習慣として身に付けることを頑張った結果、体調崩さず毎日元気に学校に通うことができました。来年の今頃は、僕たち2年生も今の3年生のように入試直前の大事な時期なので、この調子で続けていこうと思います。

最後に、僕が夏休みを終え意識して行ったことがあります。それは勉強方法の見直しです。当たり前のことですが、今年は去年よりも全教科の勉強内容が難しくなりました。そのため、今まで通りの勉強方法ではいけないと考え、取り組み方を見直すことにしました。

裏へ続きます。

表からの続きです。

具体的にどのように変えたかという、「今日はこのページまで終わらせる」「何時何分まで勉強する」といった、明確な目標を定めてから勉強を始めるようにしました。最初の頃は自分に甘え、せっかく目標を定めていても、それを達成させることを諦めてしまうことが多々ありました。しかし、継続的に行うことで、生活リズムと同じように、習慣として身に付けることができました。おかげで、テストに余裕をもって臨むことができ、自分が目標としている結果に近づけるようになりました。

これらのことを振り返って、僕は夏休み明けから、頑張れば成長でき、結果もついてくると感じたと同時に、まだまだ自分には頑張らなくてはいけないことや、問題点があることに気がきました。よくできたことはそのまま伸ばしていき、できなかったことは改善していけるように、早速冬休みから行動していきたいと思います。

2年 菅谷 拓利

僕がこれまでの学校生活を振り返って、心に残ったことは三つあります。

一つ目は、桐苑祭です。最近ではコロナ禍の影響で、規模を縮小して行っていた桐苑祭でしたが、今年度は全学年が体育館に集まり、午前中の文化発表も含め、盛大に行うことができました。その中で僕は、課題曲の指揮者を務めることになりました。初めは「簡単だろう」と意気込んでいたものの、いざ実際に指揮をしてみると、何回もピアノや歌声とずれてしまったり、緊張で振りが早くなってしまったりと、なかなか思うようにいかずにクラスに迷惑をかけることが多々ありました。また、自由曲でも僕たちのクラスの曲は難易度が高く、全パートで合わせると声がバラバラになってしまうことがありました。それでも休み時間などを有効に活用し、指揮の練習では動画を何度も見返して指揮の振り方を繰り返し練習したり、歌の練習ではお互いに各パートや全体の反省点、改善点をアドバイスし合って修正を重ねたりすることで、本番に向けて少しずつクラス全体のまとまりが出てくるようになりました。そして迎えた本番では、これまで支え合ってきた仲間や自分たちで行ってきた練習を信じて、クラスで積み重ねてきた力を存分に発揮し、最後まで歌い続けることができました。クラスとしては賞をとることはできなかったですが、僕は指揮者賞を取ることができました。この指揮者賞は、自分だけのものではなく、クラスみんなの支えがあって取ることができたものであると思います。最後の桐苑祭で、クラスみんなが団結し、最高の思い出をつくることができよかったです。

二つ目は、総合の時間に取り組んだ探求学習についてです。僕たちの班は、石岡の魅力を上げるために「これからの石岡市」というテーマで探求活動を行いました。三年生の四月に修学旅行で訪れた京都市と比較をし、具体的にどのような取り組みを行えば、京都市のように自分たちの町「石岡」を活性化することができるのだろうと班の友達と考えました。その後、僕たちの班は「石岡市子ども会議」というものに参加しました。そこで、市内の他の中学生と探求学習の内容について意見交換をすることを通して、これからの石岡の未来像を深く考えることができました。自分たちの地域について詳しく知ることができた良い機会になったとともに、これからの石岡市を僕たちのような若い世代の人たちが担っていかなければならないという責務を実感できたとても有意義な探求活動でした。

三つ目は、学習面についてです。僕たち三年生は高校入試という試練に挑まなければなりません。僕は、三年生の初めの頃は「まだ一年もあるから大丈夫だろう」と思い勉強を疎かにしていました。そんな僕でしたが、夏に参加した志望校の部活動見学で、学校の設備や先輩方が熱心に部活動に打ち込む姿を見て、「自分も同じようにここの高校で精一杯部活動に取り組みたい」と強く思うようになりました。この頃から受験生としての危機感を少しずつ感じ始め、本気で自分の進路や受験勉強に向き合うようになりました。そのため、まず夏休みには、一年生の範囲から三年生の夏休み前までの範囲を徹底的に復習しました。その結果、九月のテストでは、以前よりも解くことができる問題が多くなり、勉強の成果を実感することができました。そして今も、志望校合格に向けて意識を高くもち、努力を続けています。私立入試までは残り一ヶ月を切り、県立入試までも約二ヶ月という時期に差し掛かって、どうしても緊張や焦りが出てくる時期であると思います。それでも自分を見失わずに今まで積み重ねてきたことを信じて努力をし続けることができれば、必ず良い結果に結びついてくると思います。

中学校卒業までの約二ヶ月半、入試に向けてこれからさらに色々忙しくなっていきます。また、それと同時に今の三年生や同じクラスの友達と過ごすことができる時間もあとわずかになってきてしまいました。そのため、残りの二ヶ月半は、自分の将来に向けて必死に勉強を続けていながらも、友達と過ごす時間も大切に、最後には「石岡中でよかった」「みんなと同じクラスでよかった」と思うことができるような思い出をたくさんつくっていきたくです。

3年 川並 大和